

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成29年度実装活動報告書

実装支援プログラム (成果統合型)
実装プロジェクト

「高齢社会課題解決に向けた共創拠点の構築」

実装代表者氏名 辻 哲夫

(英語表記) Tetsuo Tsuji

所属 役職 東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授

(英語表記) Professor, The Institute of Gerontology / The University of Tokyo

目次

1. 実装プロジェクト名.....	2
2. 実装活動の具体的内容.....	2
2 - 1. 実装活動の達成目標.....	2
2 - 2. 実施内容・結果.....	2
2 - 3. 会議等の活動.....	9
3. 実装活動成果の活用・展開に向けた状況.....	10
4. 実装活動実施体制.....	10
5. 実装活動実施者.....	12
6. 実装活動成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	13
6 - 1. シンポジウム等.....	13
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など.....	13
6 - 3. 論文発表.....	13
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）.....	14
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等.....	14
6 - 6. 知財出願.....	14

1. 実装プロジェクト名

実装プロジェクト名：「高齢社会課題解決に向けた共創拠点の構築」
(Redesigning communities for aged society)

実装代表者：辻 哲夫（東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授）

実装活動期間：平成28年7月1日から平成31年3月31日まで

2. 実装活動の具体的内容

2-1. 実装活動の達成目標

本実装プロジェクトでは、各種社会技術の俯瞰的な体系化と、それらの利活用を担う人材育成およびネットワーク化を通して、活力と魅力ある高齢社会を共創する拠点機能の確立を目指す。プロジェクト終了時のマイルストーンは以下の3つとなる。

- (1) 千葉県柏市等の実践コミュニティでの社会技術の発展・統合を図る実践活動
- (2) 共創プラットフォーム活動における理論的な活動
 - ①人材育成，支援/②情報共有プラットフォーム/③社会技術・地域協働の体系化
- (3) 継続的な共創活動を支援する法人への継承

2-2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	最終成果
(1) 実践コミュニティ活動	柏市	住民と協働した事業計画づくり (検討会・WS等) 関係性づくり	地域計画に応じた活動実施・ 情報収集	アセスメント, 他地域波及	スキーム運営の構築 社会技術の発展・ 統合化
	柏以外	他の自治体との関係性構築への協議（順次継続）			協働自治体のネットワーク 地域拠点の萌芽
(2) 人材育成・ネットワークング		コンセプト・コンテンツ等の整理 (部会) プログラム作成	研修の試行・改善	フォローアップ・講師養成 ↑ 事業化	育成プログラム 育成した人材のネットワーク
		既存事業との交流 協働・継承可能性の検討			
(3) 情報共有プラットフォーム		コンセプト・コンテンツ等の整理 運営体制、ルールづくり	ホームページの段階的公開 (29年度:情報アーカイブ)	↑ 合流	情報発信・交換のプラットフォーム ネットワーク強化 知見・活動の集約
		情報デザインの検討 交流機能の検討	交流機能の具体化 と試行 → 実装		
		各地での取り組みの収集			
(4) 新たな価値、政策提言の発信等		協議体の構築 → 新たな価値・政策の提言に向けた協議			知見の体系化 新たな価値・政策提言の発信媒体の構築 C-AR、LL等 地域協働手法の体系化
		高齢領域PJ深掘調査	体系化に向けたフレームの検討 → 情報・プロセス・手法の理論的体系化 レビュー調査		
(5) 実体的なプラットフォームの構築		一般社団法人の立ち上げ・運営 ・公開フォーラム ・公開フォーラム			センター運営体制の構築、周知 自立化
		自立運営モデル、組織レベルのネットワーク構築			

（２）各実施内容

①モデルとなる実践コミュニティの構築（柏市）

目標：引き続き、特徴の異なる2つの地域において、「地域の諸課題に取り組む住民主体の協働の場」の創出を目指した。

実施事項①－１ 布施新町（富勢地域）：おたがいさまコミュニティ形成技術を活用した地域積み上げ型の実践コミュニティ構築活動

実施事項①－２ 豊四季台地域：柏市地域支え合い会議と連動した政策連携型の実践コミュニティづくり、ならびに地域拠点の構築支援

②高齢社会課題解決型の人材育成プログラム作成に向けた検討

目標：平成28年度の検討状況を踏まえて、人材のネットワーク化による学び合う機会の創出に焦点を当てることにした。そこで、旧領域PJの成果（生きがい就労モデル）が反映された生涯現役促進地域連携事業を対象として、ヒアリング、アンケートおよび情報交換会の実施を実施し、学び合いにつながるネットワーク活動を目指した。

実施事項②－１ 各地の生涯現役促進地域連携事業へのヒアリング

実施事項②－２ 生涯現役促進地域連携事業の情報交換会の実施

③情報共有プラットフォームの段階的構築および実装

目標：前年度の整理に基づき、ホームページの構成を検討して、実装した。加えて、平成28年度に想定した利用者像について、主に自治体職員に焦点を当てた深掘り、具体化を図った。加えて、利用者目線で情報共有プラットフォームの利用プロセスについて検討し、構築に向けた方針の整理を進めた。

実施事項③－１ ホームページの開設

実施事項③－２ 自治体職員へのオンラインサービスに関するヒアリング

④社会技術の体系化、価値の提言に向けた活動

目標：社会技術の体系化に向けて、平成28年度に収集した基礎資料をもとに、検討を進め、理論的な整理を目指した。また、2つのシンポジウムを企画・開催することで、価値発信ならびにネットワーク活動の進展を目指した。

実施事項④－１ 地域協働の可視化・体系化に向けたプロジェクト深堀調査

実施事項④－２ 体系化に向けた検討ミーティング

実施事項④－３ シンポジウム「長寿社会を共創する」@東京大学の開催

⑤継続的な共創活動を支援する法人の設立

目標：法人を立ち上げ、統合実装活動の成果の継承先を創出した。

実施事項⑤－１ 改組による一般社団法人 高齢社会共創センターの創設

(3) 成果

①モデルとなる実践コミュニティの構築（柏市）

特徴の異なる2つの地域を取り上げ、活動を展開した（図1）。いずれも、「地域の諸課題に取り組む住民主体の協働の場」の創出が要である点は共通しているが、アプローチの面で「国の政策を入口」にする豊四季台地域(政策連携型)と、入口から住民主体で掘り起こす土台づくりを手掛ける布施新町(地域積み上げ型)とで、異なる形式を試みている。

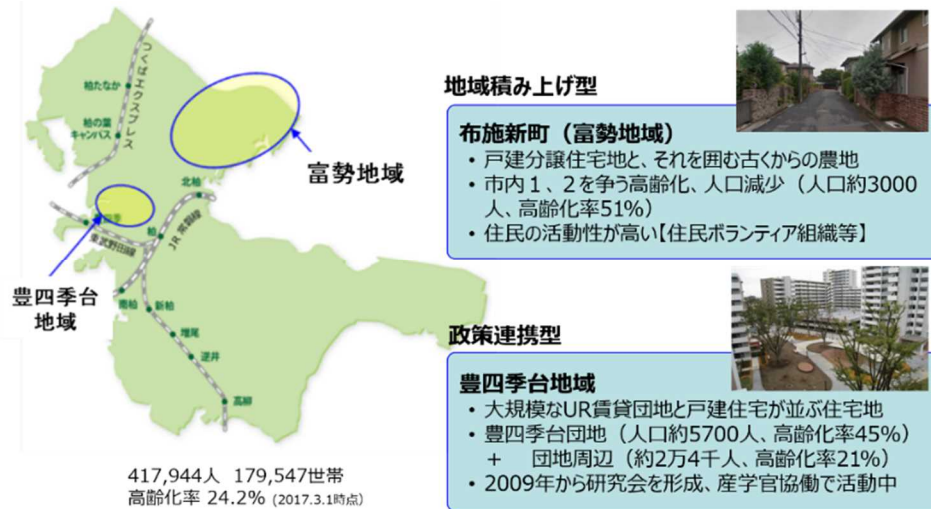


図1. 柏市で対象とした2地域の特徴

実施事項①-1 布施新町（富勢地域）

おたがいさまコミュニティ形成技術を活用して、地域住民が自分事として地域を考えることのできる関係づくりに向け、以下の活動・支援を実施し、進展が見られた。

- 前年度に引き続き、民官学の主要メンバーによる「みらい会議」を定期開催した。
- 2017年3月31日、4月16日に「おたがいさまワークショップ」（「布施新町みらいの語り場」）を実施した。語り場には2回で合計67名が参加し、170を超える「まちにあったらいいな」のアイデアが挙げられた。
- 「語り場」のアイデアとともに、プロジェクトを地域住民に知らせるイベントの実施をみらい会議で提案し、住民有志と実行委員会を立ち上げた。
- 5月からプロジェクト広報誌「みらいたより」第1号を発行し、全戸配布した。
- 2017年6月に近隣の小学校体育館にて、地域イベント「みらいひろば」を開催した。前年度調査や語り場の成果を共有するとともに、ワークショップで挙げたアイデアを住民主体でお試しする場とした。
- 主な中心人物（「みらいひろば」実行の連絡係）4名を中心に「みらいプロジェクト世話人会」を立ち上げることになった旨、参加住民より報告があった。
- 世話人会発案による住民の誰もが企画、実行、参加のどの段階からでも参加できるオープン型イベント「ぶらりゆめプラザ」を開催した（9月、11月）。
- 「ぶらりゆめプラザ」の実施を通して直面した課題（住民発案企画の募集、参加を促進したい若年および中年層向けの企画作りの難しさ）に対する解決策の検討を、世話人会、大学グループ間で別途、協議を図った。

- ・ 必要性を見定めながら、プロジェクトグループが中間支援として、他地域の活動情報の提供、交流の場の設置など、団体を繋ぐ活動を実施した。また、2018年2月には、世話人会メンバーとともに福岡市を訪れ、おたがいさまコミュニティ関係者との意見交換を実施することができた。
例) 東京大学オープンキャンパス（柏）セミナーにて、類似性がある鎌倉今泉台等の他地域で活動されている方を招き、対話を図った。その中で、「自治会館」の活用等の話題に世話人会メンバーが関心を示し、鎌倉訪問へと至った。
- ・ 2018年1月に「地域資源の地図作り」ワークショップを実施した。世話人会やぶらりゆめプラザ実行に関わる住民メンバーを中心に、活動の振り返り、地域ニーズの再把握を目的とした。ワークショップ企画は、大方PJのコミュニティ住環境点検方法を参考にし、住民と専門家が共同して、コミュニティ環境を見なおす作業とした。

実施事項①ー2 豊四季台地域

年度当初は、6月開催とした地域イベント（さんあい祭り）を目指して、前年度に発足した「豊四季台地域ささえ愛実行委員会」を中心に、以下の活動を実施していった。

- ・ 本実行委員会のメンバーは地域の住民が大半を占めるものとなった。
- ・ 実行委員会はイベント開催までに、発足から月1回のペースで計7回にわたり議論を行い、プログラム、タイムスケジュール、日時、場所、会場、レイアウト、講師や来賓者などを決め、イベント内容を一から作り上げていった。
- ・ メンバーを固定化せず、必要に応じて、メンバーが柔軟に参加可能なものとした。
- ・ チラシ作成、看板制作や当日の司会役・進行役・誘導役などの役割分担も実行委員会内で実施した。

さんあい祭りの開催後、イベント前後に収集した地域住民のニーズを踏まえて、実行委員会の傘下に、3つのワーキンググループ（以下、WG）を設置することが決まった。

- A) 普及啓発・ネットワークWG：地域商店会・スーパーや地域事業者（介護・医療等）などが参加し、地域のネットワークづくりについて検討する。
- B) 健康づくり・居場所WG：NPO団体・サロン・地域包括支援センター等が中心となり、豊四季台地域の健康づくりと居場所づくり推進について検討する。
- C) 支えあいWG：たすけあい活動団体が中心となり、「生活支援体制」の在り方を検討する。

各WGは地域住民がコアメンバーとなり、地域住民の一員として民間事業者（商店会・スーパー、介護事業者など）も参加し、様々な立場から各テーマに対する具体的な取組について検討する場となった。打合せは①事務局からの報告（前回の振り返り）、②WGごとのグループワーク、③全体共有・総括という進め方を基本に、地域住民がWGでの活動を通して、様々な考えやアイデアを提案し、活発な議論を行える場づくりを意識して、組み立てを考えている。合わせて、バックアップする事務局体制が不可欠であると考え、第1層となる市役所、庁内横断的に第2層協議体（豊四季台地域支えあい会議）と連携を図りつつ、市域全体をマネジメントの在り方について、検討を図っている。

② 高齢社会課題解決型の人材育成プログラム作成に向けた検討

旧領域PJの成果（生きがい就労モデル）が関連し、かつ地域連携が重要要素として問われている生涯現役促進地域連携事業※を対象として、学び合うネットワーキング活動を試行的に実施した。

※平成28年度から厚生労働省で実施している「高齢者の雇用・就業促進に向けた地域の取組を支援し、先駆的なモデル地域の普及を図ることにより、多様な雇用・就業機会を創出していく」ことを目指すモデル事業。

実施事項②-1 各地の生涯現役促進地域連携事業へのヒアリング

ネットワーキング活動を進めるに当たって、各地域の状況・悩みを把握するためのヒアリングを実施した。ヒアリング項目として、以下の内容を設定した。本ヒアリングでは、8地域（柏市、鎌倉市、松山市、津山市、総社市、袋井市、福岡県、北海道）の事業にご協力を頂くことができた。

1. 地域連携事業の内容・進捗、「生涯現役」へのイメージ（実現したい生涯現役像）
2. 対象地域の高齢者の現状、課題
3. 共有したい情報、困りごと
4. 情報交換会への期待、要望
5. 外部の支援や役立つツール情報など、期待する情報

実施事項②-2 生涯現役促進地域連携事業の情報交換会の実施

ヒアリング等への回答内容を踏まえながら、2018年2月21日に情報交換会を開催した。各実施地域の担当者に対して「相互の学び、悩みの共有とネットワークづくり ※」を大きな目的として掲げ、参加を投げかけ、全国各地から16地域のモデル事業関係者に参加いただいた。今回の試行的実施を通じた情報をもとに、次年度企画につなげることとした。

《概要》平成29年度情報交換会

日時：平成30年2月21日（水） 13時～17時30分

場所：東京大学本郷キャンパス 情報学環 福武ホール B2F 「福武ラーニングスタジオ」

参加者：49名（市区町村21名、都道府県14名、他自治体2名、関係者12名）

※ 受託地域 16か所が参加 参加率 55.2%（母数＝29自治体（平成30年2月時点））

- 構成：
1. 自己紹介（本事業における役割、心構え、実践するためのスキル）
 2. 生涯現役を促進する地域連携に向けて
 - － 「生涯現役」と「地域連携」について（趣旨説明）
 - － 生涯現役の姿（事例）と ジョブコーディネーターの実践事例
 3. 情報・意見交換
 - － 事前ヒアリングのフィードバック（話題提起）
 - － 3つの地域から活動紹介（松山市、総社市、袋井市）
 - － グループディスカッション「地域で生涯現役を実現するには」
 4. 役立ちツールの紹介（GBER、からだ測定等）
 5. 懇親会

③情報共有プラットフォームの段階的構築および実装

実施事項③-1 ホームページの開設 (<http://www.cc-aa.or.jp/>)

平成28年度の検討した構造を採用して、ホームページを立ち上げた（図2）。



図2. 高齢社会共創センターHP

実施事項③-2 自治体職員へのオンラインサービスに関するヒアリング(図3)

上記のホームページを立ち上げる中で、オンラインサービスとして、利用者目線に立った方針を持たずに闇雲に情報を発信しても、有効に情報を活用してもらえない危惧を持つに至った。そこで、本ページで実装した構造をさらに有効に活かせるように、重要なステークホルダーであり、オンライン活用に各種の制約があるものと想定される自治体職員に絞って、より具体的な利用シナリオを検討することにした。

そこで、各地の生涯現役促進地域連携事業へのヒアリング（実施事項②-1）の機会を活用して、情報収集の実情、オンライン利用環境について、現実と課題を聴取した。それらの情報をもとに、別途、フォーカスグループインタビューを実施し、シナリオ作成のための情報を聴取した。次年度には、これまでの情報について全体敵に整理して、カスタマージャーニーの精緻化に着手する予定としている。

図3.

利用者シナリオ・利用環境に関するヒアリング項目

【生涯現役地域連携促進事業に絡めた質問】

1. 生涯現役促進事業を知ったきっかけはなんだったか
2. 受託検討時、事業内容、先行事例の情報収集をしたか
3. 受託までのプロセス
4. 情報収集中、他の自治体と情報交換をしたいと感じたか
5. 受託するときの手続き業務で大変だったこと
6. よりよい（理想の）情報収集方法【役立つツール】

【テーマを設けず一般的にできる質問】

1. 普段WEBをどれくらい見るか（頻度、滞在時間）
2. それはいつか（勤務中、通勤中、自宅等）
3. 公務か私用との比率は（利用シナリオ）
4. WEBでの情報収集や交流に制限があるか
5. 職場でWEBを見ることについての雰囲気はどうか
6. 欲しい情報を得るときの検索キーワードはどのようなものが

A.自治体職員の
利用シナリオの理解

B. Web利用環境
の理解

利用者シナリオと利用環境の理解

④社会技術の体系化、価値の提言に向けた活動

実施事項④－1 地域協働の可視化・体系化に向けたプロジェクト深堀調査

平成28年度から引き続き、梶原ゼロ次予防プロジェクト（伊香賀PJ）、福岡おたがいさまプロジェクト（小川全PJ）への深堀調査を実施した。また、深堀り調査を実施する中で、第三者による振り返りの機会設定そのものが、地域に与える影響を持ちうると実感し、深堀り調査フロー自体を整理することにした。

実施事項④－2 体系化に向けた検討ミーティング

深堀調査で得られた情報をもとに、開発・実装された社会技術に関する理論化、ならびにテキスト分析の検討を継続的に実施した。7月には中林プロジェクト関係者との個別ミーティング、福岡市おたがいさまコミュニティへの深堀調査では小川（全）PJ関係者との意見交換の場を設けて、中間段階ながら、暫定的に整理した内容をもとに、の意見効果を行った。

実施事項④－3 シンポジウム「長寿社会を共創する」@東京大学の開催(図4)

セクターを超えた共創とネットワークの意義について議論を行った。特に、第1部では「いきいき活躍」をテーマに、地域で取り組む共創とは何か、高齢社会領域PJから2つの事例を報告し、地域とともに進展する「モノ・サービス・仕組み」の共創について議論した。次いで第2部では、活力と魅力ある持続可能な社会の実現につながる共創プラットフォームのあり方について、行政・企業・大学・ユーザーの各立場からディスカッションした。共創拠点に期待されるポイントとして、これからのまちづくりの評価基準を導き出すことの重要性や、リビングラボを事例とした共創を生み出す場などがあげられた。

図4.
第1部
ディスカッション
風景
(2017.11)



⑤継続的な共創活動を支援する法人の設立

実施事項⑤－1 改組による一般社団法人 高齢社会共創センターの創設

平成29年4月27日に一般社団法人 高齢社会検定協会を改組する形で、一般社団法人 高齢社会共創センターの設立に至った。ジェロントロジー関連の組織、団体との交流を進めている。

2 - 3. 会議等の活動

①モデルとなる実践コミュニティの構築（柏市）

年月日	名称	場所	概要
17.4.1~	布施新町みらい 会議	東京大学柏キャンパス、または布施新町	定期的に、会議を開催。 各回の検討事項を議論。
17.4.1~	豊四季台支え合い 会議／実行委員会	柏市豊四季台	定期的に、会議・ワーキングを開催。 各回の検討事項を議論。
17.4.16	みらいの語り場		おたがいさまワークショップの実施。
17.5.10	みらいの語り場 (第2弾)	布施新町ふるさと センター	地域イベントでのトライアルアイデア の検討ワークショップ。
17.6.10	第1回さんあい 祭り	柏市地域医療連携セ ンター	地域課題についての講演、地域団体のパ ネルディスカッション、取組パネル等。
17.6.18	みらいひろば	富勢東小学校	地域イベントとして、調査・WS結果報告、 「あったらいいな」トライアルを実施。
17.9.	ぶらりゆめプラザ (住民発案イベント)	布施新町ふるさと センター	みらいひろばでトライした内容を中心 に、地域の中心部で実施。
17.10.31	まちづくりセミナ ー	東京大学柏キャンパ ス	鎌倉今泉台等、他地域の活動者を招聘し、 布施新町メンバーと意見交換。
17.11	ぶらりゆめプラザ (住民発案イベント)	布施新町ふるさと センター	世話人会以外の参加者提案によるイベン ト(音楽鑑賞)の実施。
17.12.5	鎌倉市今泉台視察	今泉台町内会館他	公民館などの共有資源の活用、空き家の 問題など、意見交換。
18.1.26	布施新町地域資源 マップ作り	布施新町ふるさと センター	活動の振り返りと、地域資源・ニーズの見 直しを主要メンバーで実施。
18.2.	福岡おたがいさま コミュニティ視察	立花高等学校 他	美和台おたがいさまコミュニティを中心 に、世話人会メンバーと視察。

②・③情報共有プラットフォーム、人材育成プログラム作成に向けた検討

年月日	名称	場所	概要
17.4.1~	ミーティング	東京大学	定期ミーティングを開催。企画や振り返 りを実施。
18.2.21	第1回生涯現役促 進地域連携事業の 情報交換会	東京大学情報学環・ 福武ホール ラーニ ングシアター	生涯現役促進地域連携事業の関係者向け に、情報交換、情報提供を目的としたセミ ナーを開催。
18.2.22	自治体関係者向け グループインタビュー	東京大学	生涯現役促進地域連携事業の2地域から 関係者に協力いただき、オンラインに関 する意見の聞き取りを実施。

④社会技術の体系化、価値の提言に向けた活動

年月日	名称	場所	概要
17.4.1~	ミーティング	東京大学、早稲田大学等	深掘り調査の検討、地域協働の体系化に関する検討を不定期ながら、頻繁に実施。
17.8.30	中林PJとの意見交換	JST 東京別館	地域協働の体系化に関する中間報告をもとに、意見交換。
17.11.17	シンポジウム「長寿社会を共創する」	東京大学 伊藤謝恩ホール	セクターを超えた共創とネットワークの意義を中心テーマとしたシンポジウム。
17.11.	伊香賀PJ視察	高知県梶原町	高知県梶原町ゼロ次プロジェクト深堀調査を実施。意見交換。
18.2	小川(全)PJ視察	福岡県福岡市	おたがいさまコミュニティプロジェクトの深堀調査を実施。

3. 実装活動成果の活用・展開に向けた状況

プロジェクト活動全体を通して、実践コミュニティの内外を問わず、複数の地域との関係性を構築してきている。生涯現役促進地域連携事業で言えばテーマ型のつながり、柏市布施新町と鎌倉市今泉台等の交流で言えば地域性に基づく”つながり”、高齢社会領域時代からのつながりなど、多様なつながりの中で、どういった成果を、どのような形で展開していくことが有効であるのか、検討を進めている。次年度はこうしたつながりをもとに、高齢社会領域で開発された各社会技術、現在の実践コミュニティで応用している社会技術の展開を試みていきたいと考えている。

4. 実装活動実施体制

1. 総括グループ（グループリーダー 辻 哲夫）

東京大学 高齢社会総合研究機構

実施項目：本実装PJにおける全体運営マネジメント

役割：学術的な議論と、実践に基づく知見を同時並行で運営をする上で、両グループが適切に交流を図る上で、両者の調整を図り、計画策定と進捗管理を担う。

2. コミュニティ実践運営グループ（グループリーダー 菅原 育子）

東京大学 高齢社会総合研究機構

実施項目（1）：モデルとなる実践コミュニティの構築

役割：実践コミュニティ（柏市）にて、小地域の課題を把握すると同時に高齢社会領域にて開発された社会技術を利活用しながら、地域協働の課題解決を推進し、「いきいき・元気に・いつまでも安心して」暮らせるモデルコミュニティの構築を目指す。このプロセスを通して、社会技術を発展・統合させるスキームを構築する。また、実装ノウハウ、波及要件の明確化につながる情報を記録し、高齢社会共創グループと共有する。

3. 高齢社会共創グループ（グループリーダー 佐藤 滋）

東京大学 高齢社会総合研究機構

実施項目（2）：人材育成プログラムの試行、改善

役割：前年度立ち上げた共創まちづくり人材検討部会を基盤に、セカンドライフ支援プログラムの作成・試行・改善、既存のプログラム・研究開発との協働可能性等の検討、他テーマの検討を継続的に実施する。

実施項目（3）：情報共有PFの段階的構築および実装

役割：前年度企画・構築した情報発信機能を実装しながら、情報整理手法を確立し、新たな情報の収集、および情報の構造化を図る。同時に、WEB利用者の交流機能の具体化を進め、今年度内に試行的構築・改善を実施する。

実施項目（4-1）：セクターを越えた対話の場の創出

役割：公開型フォーラム等の対話の場を設け、新たな価値の形成・発信につなげる。また、協働手法に関する体系化・論理化を図る。

実施項目（4-2）：新たな価値、政策提言の発信

役割：実施事項（1）、（2）、（3）、（4-1）から見出される情報、価値の発信に向けて、HP運営、交流企画等、活動を取りまとめる。

実施項目（5）：実体的なプラットフォームの構築

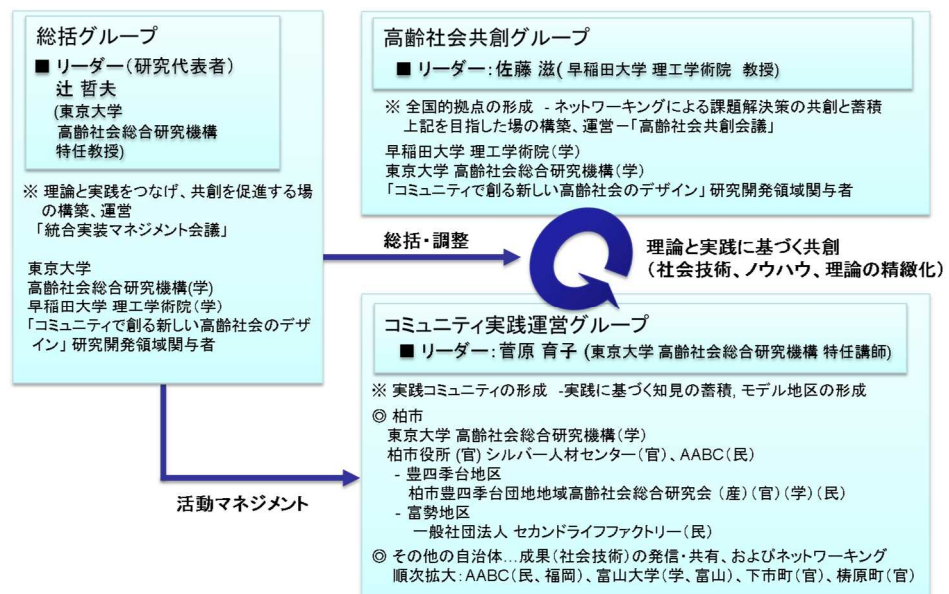
役割：実体を伴うネットワーク構築に向けて、日本全国に点在するジェロントロジ、高齢社会のまちづくりに関連する組織・活動体との交流、協議を図る。

早稲田大学 理工学術院

実施項目（5-2）：社会技術の可視化フレーム作成と、応用手法の検討

役割：本グループでは、社会技術の開発・実装プロセスの可視化、社会技術の広がり方のモデル化に関するフレーム(プロトタイプ)を活用して、他地域への深堀調査を実施し、プロセスを可視化する。また、フィードバック等を通して、継続的に検討、改善を図る。さらに、活用可能性を視野に入れながら、深堀調査で蓄積した映像データの編集について方向性を検討し、今年度内に編集に着手する。

図5. 体制図



5. 実装活動実施者

総括グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
辻 哲夫	ツジ テツオ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任教授	事業統括(理論と実践の調整)
菅原 育子	スガワライコ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任講師	総括補佐(実践サイドの調整)
前田 展弘	マエダ ノブヒロ	東京大学	高齢社会総合研究機構	客員研究員	総括補佐(学術サイドの調整)

コミュニティ実践運営グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
菅原 育子	スガワラ イコ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任講師	実践活動の全体企画、進捗管理
村山 洋史	ムラヤマ ヒロシ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任講師	実践活動の全体企画、進捗管理
後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任講師	実践活動運営(主に豊四季台地区)
前田 展弘	マエダ ノブヒロ	東京大学	高齢社会総合研究機構	客員研究員	共創グループとの調整
土師 真裕子	ハジ マユコ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	アセスメントの計画、実施
田中 紀之	タナカ ノリユキ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	活動記録・公開の計画、実施
神谷 哲朗	カミヤ テツロウ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	実践活動運営者との調整
後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任講師	実践活動運営(主に豊四季台地区)
荻野 亮吾	オギノ リョウゴ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任助教	実践活動運営(主に豊四季台地区)
税所 真也	サイショ シンヤ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任助教	実践活動運営(主に豊四季台地区)
本多 広幸	ホンダ ヒロユキ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	実践活動運営
洪川 勉	シバカワ ツトム	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	実践活動運営
沖田 征也	オキタ セイヤ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	実践活動運営
成嶋 正俊	ナルシマ マサトシ	柏市	保健福祉部	部長	市役所内での関係部署及び市内関係団体との調整
名和 淳子	ナワ ジュンコ	東京大学	高齢社会総合研究機構	技術補佐員	実践運営補佐
永塚 洋一	ナガツカ ヨウイチ	柏市	保健福祉部福祉政策課	課長	民官学共同実装活動体制の構築と調整、勉強会企画
稲荷田 修一	イナダ シュウイチ	柏市	保健福祉部地域医療推進室	室長	民官学共同実装活動体制の構築と調整、ワークショップ企画
秋山 亨克	アキヤマ タカヨシ	柏市社会福祉協議会		事務局長	市内関係団体との調整、住民活動支援手法の構築
山下 嘉人	ヤマシタ ヨシト	柏市社会福祉協議会		事務局次長	実践活動の企画管理、住民活動支援手法の実践
寺岡 伸悟	テラオカ シンゴ	奈良女子大学	文学部人文社会学科	教授	集落点検法の実施
小川 全夫	オガワ タケオ	特定非営利活動法人アジアン・エイジング・ビジネスセンター		理事長	コミュニティへの開発技術の実装支援
南 伸太郎	ミナミ シンタロウ	公益財団法人 九州経済調査協会	調査研究部	主任研究員	コミュニティへの開発技術の実装支援
原口 尚子	ハラグチ ナオコ	公益財団法人 九州経済調査協会	調査研究部	研究員	コミュニティへの開発技術の実装支援
大方 潤一郎	オオカタ ジュンイチロウ	東京大学	大学院工学系研究科都市工学専攻	教授	コミュニティ居住環境点検手法の実施
後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任講師	コミュニティ居住環境点検手法の実施

高齢社会共創グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
佐藤 滋	サトウ シゲル	早稲田大学	理工学術院	教授	協議体運営、協働手法の体系化
前田 展弘	マエダ ノブヒロ	東京大学	高齢社会総合研究機構	客員研究員	協議体運営補佐
太田 秀樹	オオタ ヒデキ	医療法人アスミス		理事長	新たな価値観の創出
鈴木 隆雄	スズキ タカオ	桜美林大学	老年学総合研究所	所長	評価アセスメント指標・指針の検討
小川 晃子	オガワ アキコ	岩手県立大学	社会福祉学部	教授	社会技術の体系化、協働手法の体系化
中林 美奈子	ナカバヤシ ミナコ	富山大学大学院	医学薬学研究部	准教授	社会技術の体系化、協働手法の体系化
大方 潤一郎	オオカタ ジュンイチロウ	東京大学	高齢社会総合研究機構	機構長	社会技術の体系化、協働手法の体系化
新開 省二	シンカイ ショウジ	東京都健康長寿医療センター研究所	社会科学系研究チーム	副所長	社会技術の体系化、協働手法の体系化
寺岡 伸悟	テラオカ シンゴ	奈良女子大学	文学部 人文社会学科	教授	社会技術の体系化、協働手法の体系化
原田 悦子	ハラダ エツコ	筑波大学	人間系 心理学域	教授	産学連携手法、リビング・ラボの検討
清水 哲郎	シミズ テツロウ	東京大学大学院	人文社会科学系研究科 上慶死生学・応用倫理センター	特任教授	社会技術の体系化、価値観の創出
成本 迅	ナルモト ジン	京都府立医科大学大学院	医学研究科 精神機能病態学	准教授	社会技術の体系化、価値観の創出
伊香賀 俊治	イカガトシハル	慶應義塾大学	理工学部	教授	社会技術の体系化、価値観の創出
島田 裕之	シマダ ヒロユキ	国立長寿医療研究センター	老年学・社会科学研究センター 予防老年学研究部	部長	社会技術の体系化、価値観の創出
小川 全夫	オガワ タケオ	特定非営利活動法人 アジアン・エイジング・ビジネスセンター		理事長	産学連携手法、リビング・ラボの検討、価値観の創出
後藤 純	ゴトウ ジュン	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任講師	社会技術の体系化、価値観の創出
南 伸太郎	ミナミ シンタロウ	公益財団法人 九州経済調査協会		研究主査	産官学民協働・WS手法の体系化
浅野 光行	アサノ ミツユキ	早稲田大学	理工学術院創造理工学部	名誉教授	アクションリサーチ等協働手法の体系化検討
白木 里恵子	シラキ リエコ	早稲田大学	理工学術院創造理工学部社会文化領域	助教	アクションリサーチ等協働手法の体系化検討
菅野 圭祐	スガノ ケイスケ	早稲田大学	理工学術院創造理工学部建築学科	助手	アクションリサーチ等協働手法の体系化検討
本多 広幸	ホンダ ヒロユキ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	実践活動運営
洪川 勉	シバカワ ツトム	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	実践活動運営
沖田 征也	オキタ セイヤ	東京大学	高齢社会総合研究機構	特任研究員	実践活動運営
吉田 涼子	ヨシダ リョウコ	東京大学	高齢社会総合研究機構	学術支援専門職員	高齢社会共創グループ運営
栗田 智子	クリタ トモコ	東京大学	高齢社会総合研究機構	技術補佐員	高齢社会共創グループ運営補佐

6. 実装活動成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

平成29年度シンポジウム「長寿社会を共創する」

日時：平成29年11月16日（木） 13時～17時30分

場所：東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター「伊藤謝恩ホール」

参加者：約250名参加

構成：第1部「高齢社会を舞台とした共創」

事例①「歩きたくなるまちづくり」中林美奈子 富山大学 准教授

事例②「楽で楽しい営農コミュニティづくり」寺岡伸悟 奈良女子大学 教授

パネルディスカッション

- モデレーター 佐藤 滋 早稲田大学 研究院教授

- コメンテーター 辻 哲夫 東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授

- パネリスト 中林美奈子 准教授、寺岡伸悟 教授

第2部「高齢社会共創プラットフォーム構想」

特別講演 「人口減少と日本経済」吉川洋（立正大学 教授、東京大学名誉教授）

パネルディスカッション

- モデレーター 秋山弘子 東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授

- コメンテーター 吉川 洋 立正大学 経済学部 教授、東京大学名誉教授

- パネリスト 浅野 大介 経済産業省 大臣官房 政策審議室 企画官

鈴木 隆雄 桜美林大学 老年学総合研究所 所長

関根 千佳 株式会社ユーディット 会長兼シニアフェロー

田中 智 三井住友銀行 法人戦略部 副部長

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

・特になし

(2) ウェブメディアの開設・運営、

・一般社団法人高齢社会共創センターのHP開設 <http://www.cc-aa.or.jp/>

(3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

・特になし

6-3. 論文発表

(1) 査読付き（ 0 件）

●国内誌（ 0 件）

- 国際誌（ 0 件）
- （2）査読なし（ 0 件）

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- （1）招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）
- （2）口頭発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）
- （3）ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

6-5. 新聞報道・投稿、受賞等

- （1）新聞報道・投稿（ 0 件）
- （2）受賞（ 0 件）
- （3）その他（ 0 件）

6-6. 知財出願

- （1）国内出願（ 0 件）
- （2）海外出願（ 0 件）